

2022年3月期決算説明

2022年5月

 日本カーバイド工業株式会社



2022年3月期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- 半導体向けや、テレワーク拡大に伴うPC、通信関連向け需要が引き続き好調に推移し、機能化学品や電子素材などの電子・機能製品の出荷が増加
- 国内・海外での自動車や二輪車の生産台数が増加したことにより、フィルム・シート製品の出荷が増加したものの、後半からは半導体不足による自動車生産台数の減少による影響で減速
- 以上の結果、前期比増収増益（コロナ禍前2020年3月期比でも増収増益）
- 当期純利益は減損損失や事業撤退損による特別損失、及び前期に投資有価証券売却益があったことにより前期比減益

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	実績	実績	実績	増減額	増減率
売上高	46,699	42,231	47,003	4,772	+11.3%
営業利益	2,557	2,388	3,192	804	+33.7%
営業利益率	5.5%	5.7%	6.8%	—	+1.1ポイント
経常利益	2,817	2,852	4,055	1,203	+42.2%
当期純利益	1,741	2,406	1,930	▲ 475	▲19.8%

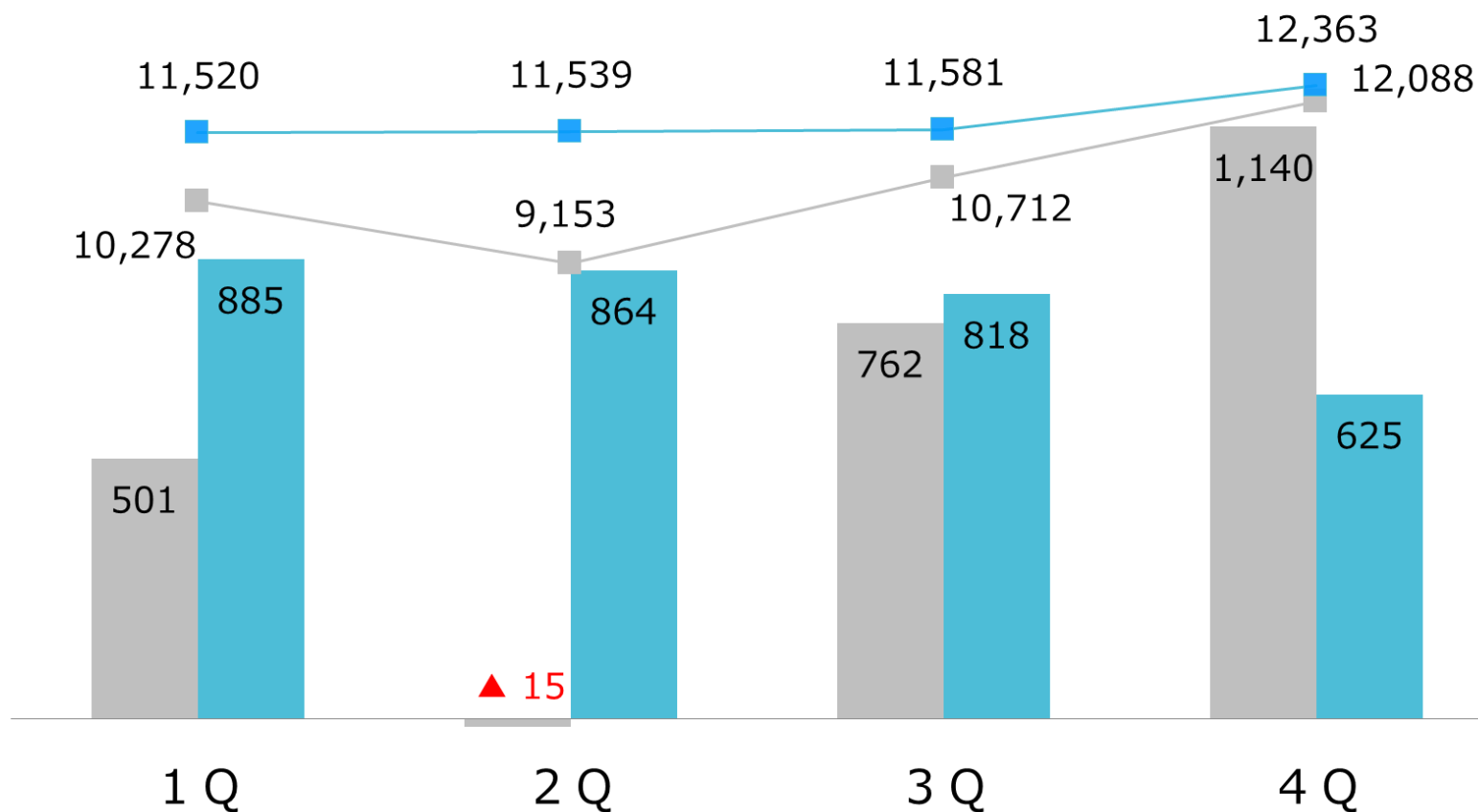
四半期業績トレンド



売上高については各四半期とも前年同期比増収となったものの、営業利益については第4四半期において原材料価格の高騰もあり前年同期比減益

単位：百万円

■ 2021年3月期営業利益 ■ 2022年3月期営業利益 ■ 2021年3月期売上高 ■ 2022年3月期売上高

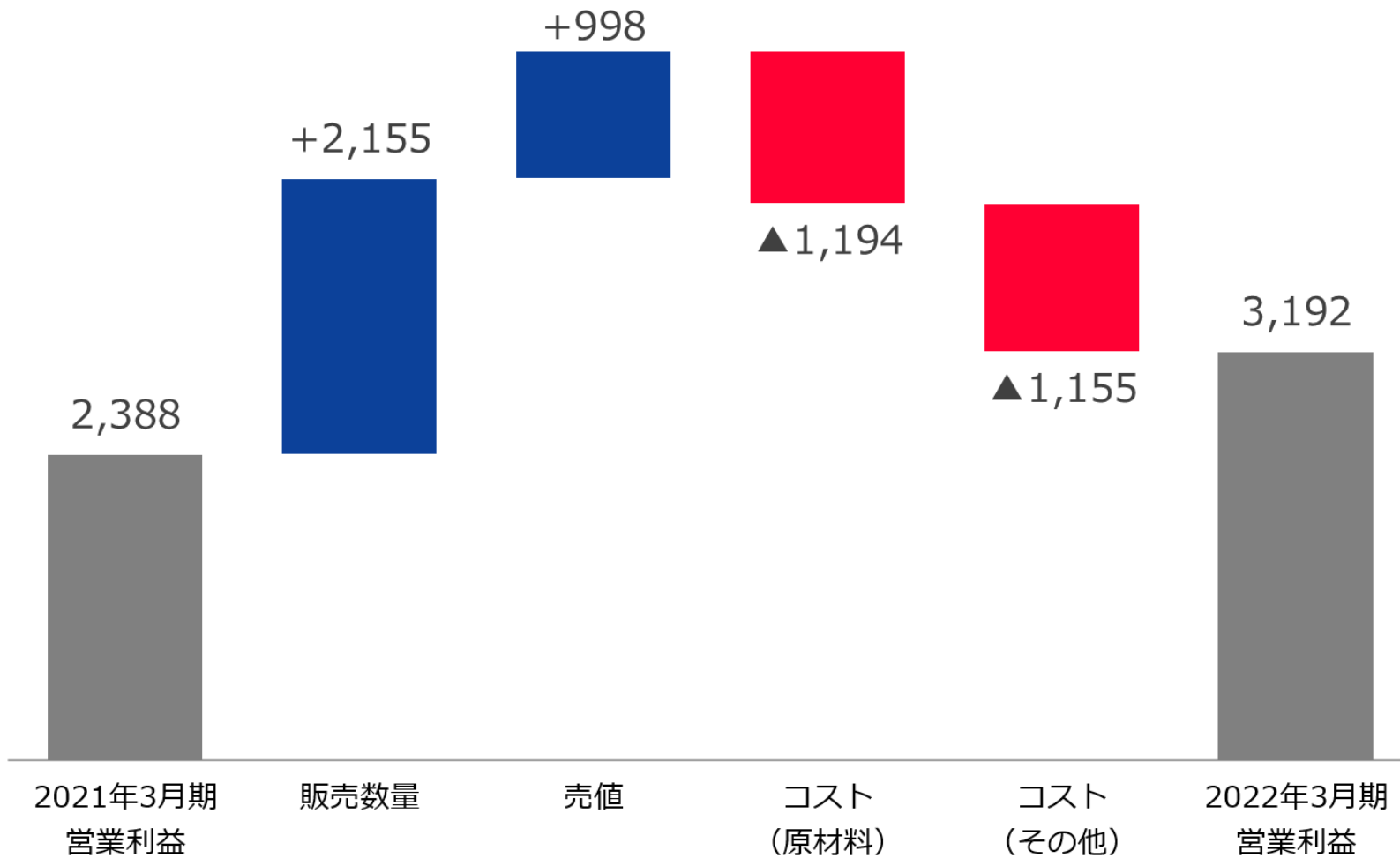


営業利益増減要因分析



前期比 804百万円増益

単位：百万円



セグメント別業績



単位：百万円

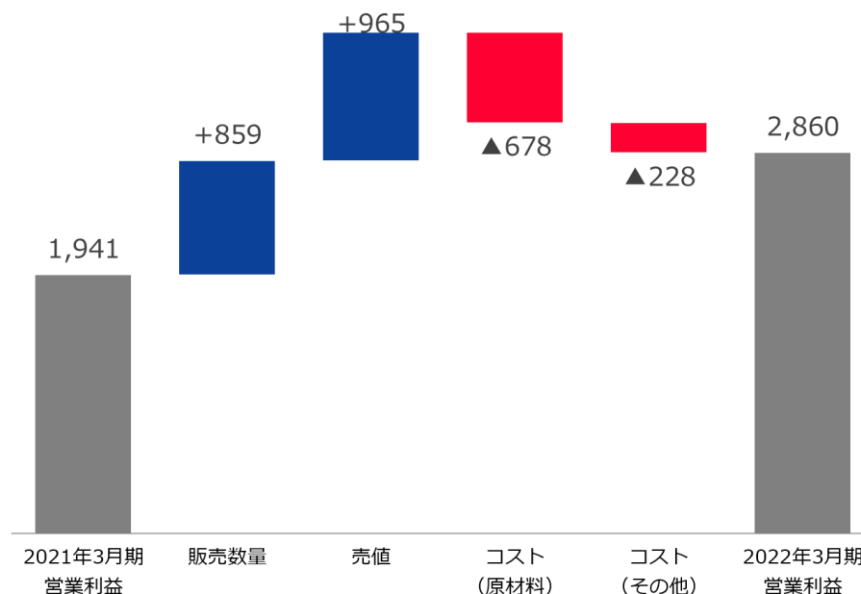
		2021年3月期	2022年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	17,652	20,473	2,821	+16.0%
	営業利益	1,941	2,860	919	+47.4%
フィルム・シート製品	売上高	13,826	16,172	2,346	+17.0%
	営業利益	11	285	274	+2499.6%
建材関連	売上高	8,397	7,507	▲ 889	▲ 10.6%
	営業利益	515	279	▲ 235	▲ 45.7%
エンジニアリング	売上高	4,035	4,257	222	+5.5%
	営業利益	76	82	6	+8.3%
連結調整	売上高	▲ 1,680	▲ 1,407	-	-
	営業利益	▲ 156	▲ 315	-	-
連結合計	売上高	42,231	47,003	4,772	+11.3%
	営業利益	2,388	3,192	804	+33.7%

セグメント別状況 電子・機能製品事業



単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	17,652	20,473	2,821	+16.0%
機能化学品	2,763	3,739	976	+35.3%
機能樹脂	8,192	9,560	1,368	+16.7%
電子素材	5,967	7,174	1,207	+20.2%
調整	730	▲0	-	-
営業利益	1,941	2,860	919	+47.4%



機能化学品 増収増益

- + 半導体市場の好況により、フォトレジスト用や表面処理用添加剤の出荷が増加
- + 主に欧米建設市場の回復により、ビニルエーテルの出荷が増加

機能樹脂 増収減益

- + 光学関連分野向け粘着剤の出荷が増加
- + 半導体市場の好況により、電子材料向けバインダー樹脂の出荷が増加
- ナフサ価格の高騰により、原材料コストが上昇

電子素材 増収増益

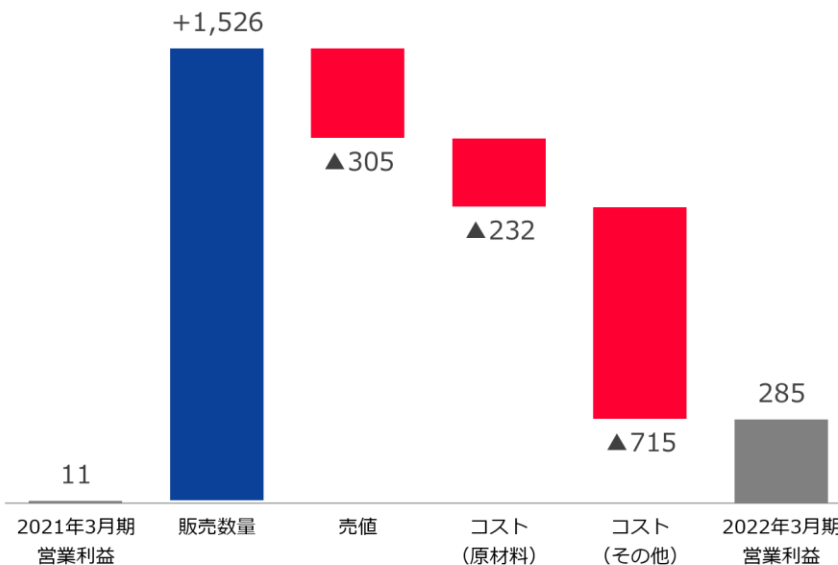
- + 電子デバイスや半導体市場の好況により、セラミック基板、厚膜印刷基板、半導体用金型クリーニング材の出荷が増加
- + タイでの設備増設投資により、セラミック基板の出荷数量が増加

セグメント別状況 フィルム・シート製品事業



単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	13,826	16,172	2,346	+17.0%
フィルム	2,342	2,759	417	+17.8%
ステッカー	4,525	5,270	745	+16.5%
再帰反射シート	6,773	8,144	1,371	+20.2%
調整	-	▲1	-	-
営業利益	11	285	274	+2499.6%



フィルム 増収増益

- + 第1・2四半期は自動車市場の回復により、マーキングフィルムやレーザーマーキングラベルの出荷が増加
- 第3・4四半期は半導体不足などによる自動車減産の影響により、上記製品の出荷が減少

ステッカー 増収増益

- + 二輪車市場の回復により、東南アジア、ブラジルで二輪車向けの出荷が増加。さらにタイでは自国内および北米市場自動車向け出荷を開始
- ベトナムではコロナ禍による社会的隔離により、二輪車向けの出荷が減少

再帰反射シート 増収減益

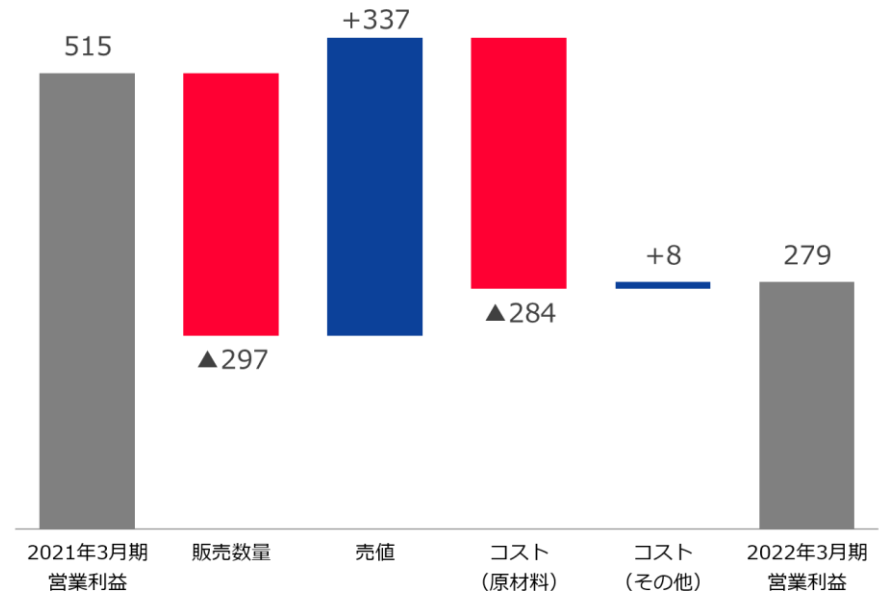
- + 自動車市場の回復により、欧州や中国向けカーナンバープレート用の出荷が増加
- 原材料価格と世界的なコンテナ不足による運賃の高騰により、コストが上昇



セグメント別状況 建材関連事業

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	8,397	7,507	▲ 889	▲10.6%
営業利益	515	279	▲ 235	▲45.7%



減収

- コロナ禍やオリンピック・パラリンピック開催の影響によりマンションの建設計画が遅れ、マンション用の手摺や笠木などのアルミ建材の出荷が減少
- 工場やオフィス、住宅などで使用されるプラスチック押出製品の出荷が減少

減益

- + アルミ地金価格高騰に対する価格転嫁や原価低減
- アルミ地金価格の高騰により、原材料コストが上昇

セグメント別状況 エンジニアリング事業



単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	4,035	4,257	222	+5.5%
営業利益	76	82	6	+8.3%

増収

- + グループ会社の大型設備投資などにより売上が増加
- + 製鉄業界向けや新規顧客向け出荷が増加したことにより、バルブ製品の売上が増加

増益

- + 製造コストの低減と販売費用および一般管理費の抑制

【サマリー】 連結貸借対照表



自己資本比率は 47%、前連結会計年度末から4.8ポイント改善

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期末比
現金及び預金	12,985	11,376	▲ 1,609
売上債権	14,355	14,773	418
棚卸資産	7,994	9,173	1,179
有形固定資産・無形固定資産	25,162	25,596	434
その他	3,410	3,627	217
資産合計	63,906	64,546	639
有利子負債	18,195	13,970	▲ 4,225
仕入債務	6,200	7,464	1,263
その他	11,010	11,062	52
負債の部	35,405	32,496	▲ 2,909
株主資本	21,047	23,546	2,498
その他の包括利益累計額	5,897	6,772	874
非支配株主持分 他	1,555	1,731	176
純資産の部	28,500	32,049	3,548
負債及び資本合計	63,906	64,546	639
D/Eレシオ	0.64	0.48	▲ 0.16
自己資本	26,945	30,318	3,373
自己資本比率	42.2%	47.0%	4.8ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは1,937百万円（前期比805百万円減少）

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	前期比
税金等調整前当期純利益	3,304	2,627	▲ 676
減価償却費	2,001	2,068	67
運転収支	▲ 278	204	482
その他	▲ 1,237	▲ 602	635
営業活動によるキャッシュフロー	3,790	4,297	506
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,047	▲ 2,360	▲ 1,312
フリーキャッシュフロー	2,742	1,937	▲ 805
有利子負債の増減額	848	▲ 4,226	▲ 5,075
配当金の支払額	▲ 328	▲ 580	▲ 251
新株予約権の行使による株式の発行	702	742	39
その他	▲ 188	▲ 146	42
財務活動によるキャッシュフロー	1,034	▲ 4,210	▲ 5,245
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 85	709	794
現金及び現金同等物の増減額	3,691	▲ 1,563	▲ 5,255
現金及び現金同等物の期末残高	12,402	10,838	▲ 1,563



新・中計「NCIキラリ2025」では戦略投資に注力

単位：百万円

設備投資額	2021年3月期	2022年3月期	前期比
設備投資額	2,493	2,942	449
電子・機能製品	873	1,245	372
フィルム・シート製品	776	1,440	664
建材関連	113	55	▲ 58
エンジニアリング	125	91	▲ 34
共通・調整	604	108	▲ 496
減価償却費	2,001	2,068	67
電子・機能製品	620	665	45
フィルム・シート製品	652	674	22
建材関連	149	131	▲ 18
エンジニアリング	57	56	▲ 1
共通・調整	519	539	20
研究開発費	2,019	2,104	85

主な設備投資案件

- 半導体向け表面処理用添加剤設備の増強
- 電子部品向け厚膜印刷基板の生産能力増強
- 再帰反射シート/次世代機能性フィルム設備の一部増強
- ステッカー事業における品質強化・評価設備導入等
- エンジニアリング事業 グループ内の分析業務の効率化

※設備投資額は、設備等が検収された時点をもって資産計上された金額。投資活動によるキャッシュフローの有形固定資産の取得による支出は検収された設備等の資金が実際に支払われた時点での金額となり、差異が生じる



2023年3月期決算の通期業績予想

2023年3月期 連結業績予想



新・中期経営計画「NCIキラリ2025」が始動、ニューノーマル時代のサステイナブルな成長ステージへ

単位：百万円

	2022年3月期		2023年3月期		前期比		
	実績	利益率	業績予想	利益率	増減額	増減率	
売上高	47,003	-	52,000	—	4,997	+10.6%	
営業利益	3,192	6.8%	3,400	6.5%	208	+6.5%	
経常利益	4,055	8.6%	3,400	6.5%	▲ 655	▲16.2%	
当期純利益	1,930	4.1%	2,000	3.8%	70	+3.6%	
1株当たり配当	中間	25円	—	30	—	10円	+18.0%
	期末	30円	—	35	—		



ロシア・ウクライナ情勢の影響について

現在の状況を大変憂慮しており、この問題が平和的に解決に向かうことを願っております。犠牲になられた方々への哀悼の意を表します。

当社グループは、ロシアおよびウクライナに直接的な販売先、調達先、及び製造・販売拠点はなく、現時点での業績への影響はないものの、ロシア・ウクライナ情勢に関連した原材料価格の高騰を懸念しており、今後、必要に応じ対策を講じていきます。

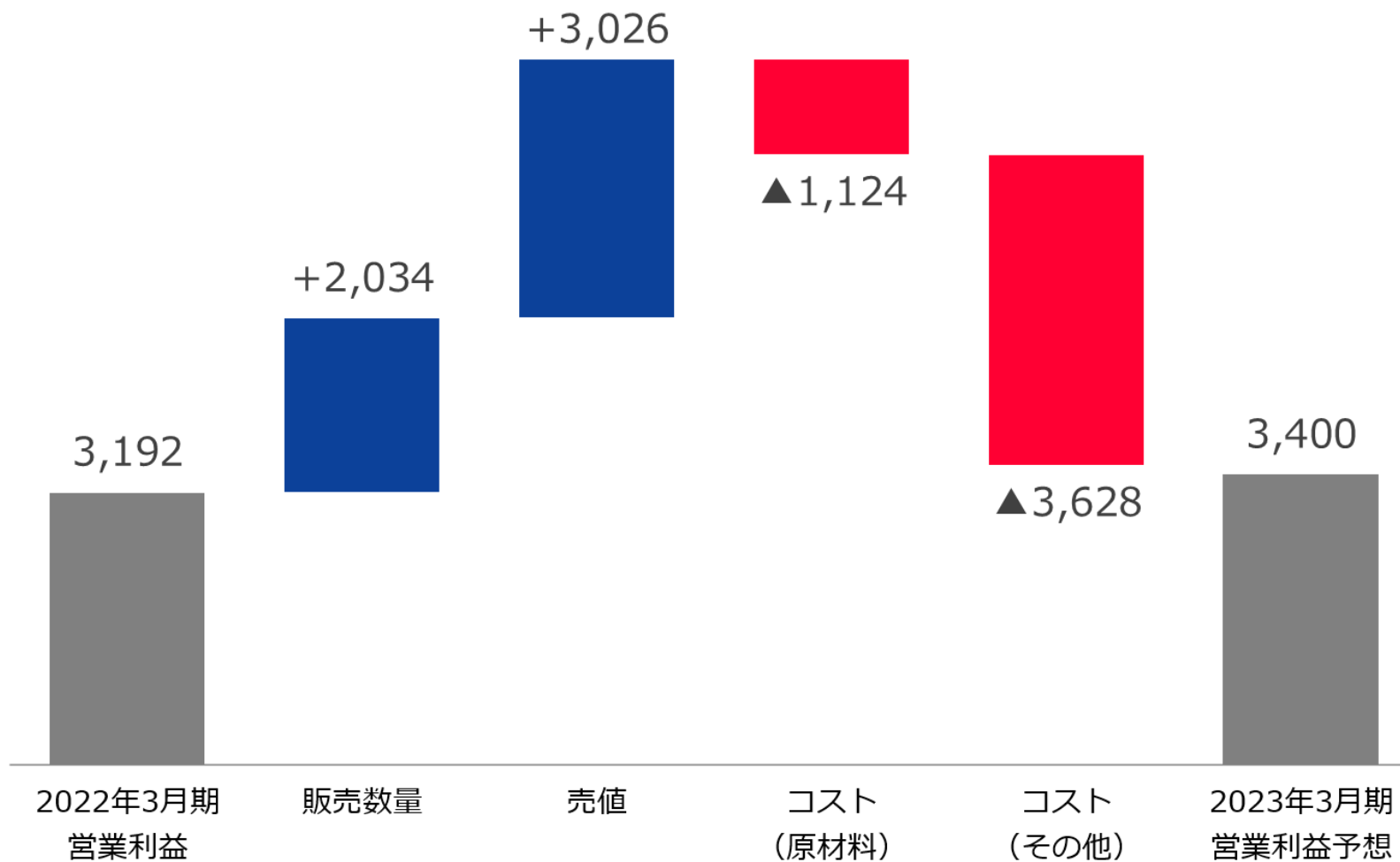
今後情勢の長期化に伴い、業績に大きな影響が見込まれる場合は、速やかにお知らせします。

営業利益増減要因分析



前期比 208百万円増益

単位：百万円



セグメント別 事業見通し



電子・機能製品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> + 半導体市場の好況が継続し、フォトレジスト用や表面処理用添加剤の出荷が増加 + 欧米の建設市場の好況が継続し、欧米向けビニルエーテルの出荷が増加
	機能樹脂	<ul style="list-style-type: none"> + 半導体市場の好況が継続し、電子材料向けバインダー樹脂の出荷が増加 - ナフサ価格の高騰によるコストへのマイナス影響
	電子素材	<ul style="list-style-type: none"> + 電子機器、半導体市場の好況が継続し、セラミック基板、半導体用金型クリーニング材の出荷が増加
フィルム・シート製品	フィルム	<ul style="list-style-type: none"> + 新製品の上市により、売上が増加 - 原材料価格や輸送運賃の高騰によるコストへのマイナス影響
	ステッカー	<ul style="list-style-type: none"> + アジア各拠点で二輪車向け高付加価値品の出荷が増加、自動車市場への参入により売上が増加 + 米国での自動車向け製品の出荷が増加 - 原材料価格の高騰によるコストへのマイナス影響
	再帰反射シート	<ul style="list-style-type: none"> + 新デザインの交付により、日本国内でのカーナンバープレート用の出荷が増加 - 欧州での半導体不足による自動車の減産やウクライナ情勢の影響等により、カーナンバープレート用の出荷が減少 - 原材料価格や輸送運賃の高騰によるコストへのマイナス影響
建材関連	<ul style="list-style-type: none"> + オリンピック・パラリンピック開催後に計画されていた首都圏でのマンション建築工事の着工などにより、手摺や笠木などのアルミ建材の出荷が増加 + 住宅、自動車、工場設備向けプラスチック押出製品の出荷が増加 - アルミ地金価格の高騰によるコストへのマイナス影響 	
エンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> + グループ会社の大型案件が計画されており、売上が増加 + 電力業界向け大型プラントでの売上が増加 - 国内大手製鉄会社の高炉停止により、売上が減少 	

セグメント別 業績予想



単位：百万円

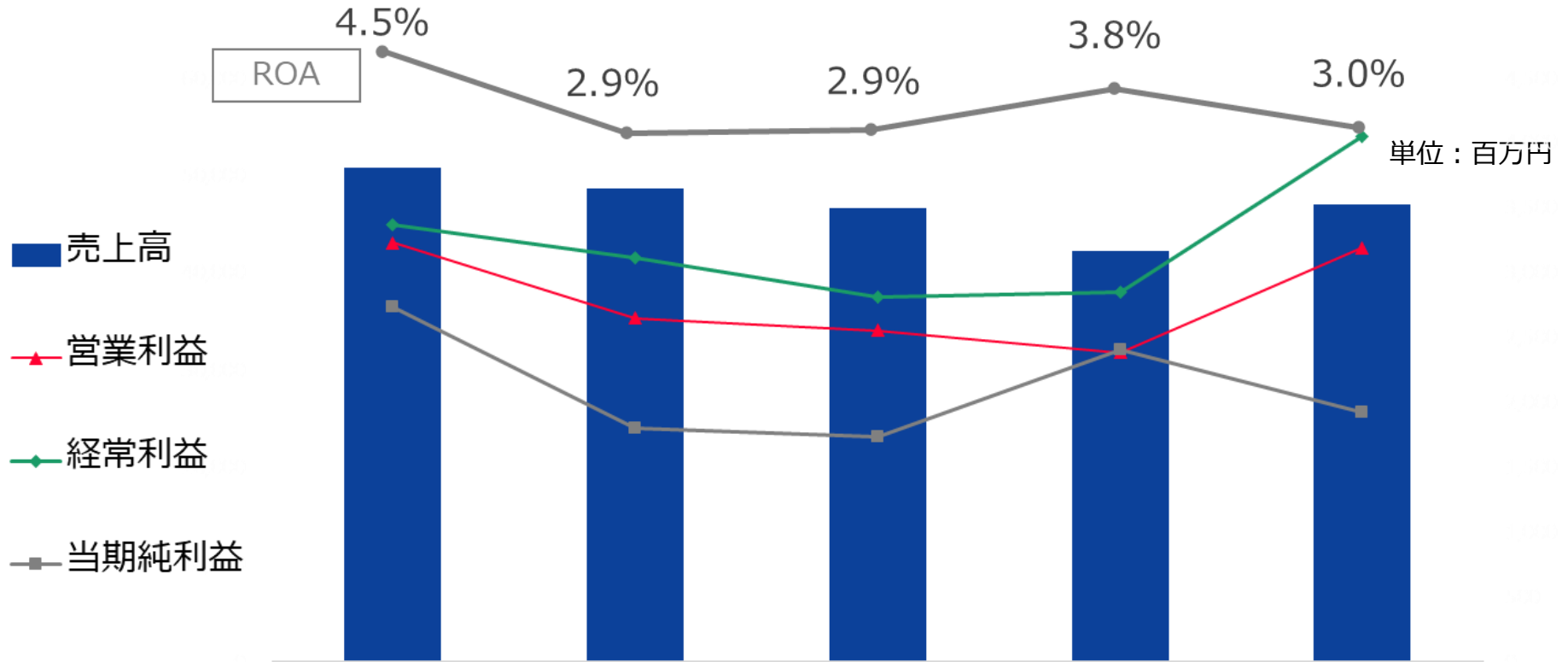
		2022年3月期	2023年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	20,473	22,500	2,027	+9.9%
	営業利益	2,860	3,100	240	+8.4%
フィルム・シート製品	売上高	16,173	18,300	2,127	+13.2%
	営業利益	285	700	415	+145.6%
建材関連	売上高	7,507	8,500	993	+13.2%
	営業利益	279	200	▲ 79	▲ 28.3%
エンジニアリング	売上高	4,257	5,600	1,343	+31.5%
	営業利益	82	100	18	+22.0%
連結調整	売上高	▲ 1,408	▲ 2,900	-	-
	営業利益	▲ 315	▲ 700	-	-
連結合計	売上高	47,003	52,000	4,997	+10.6%
	営業利益	3,192	3,400	208	+6.5%



付属資料



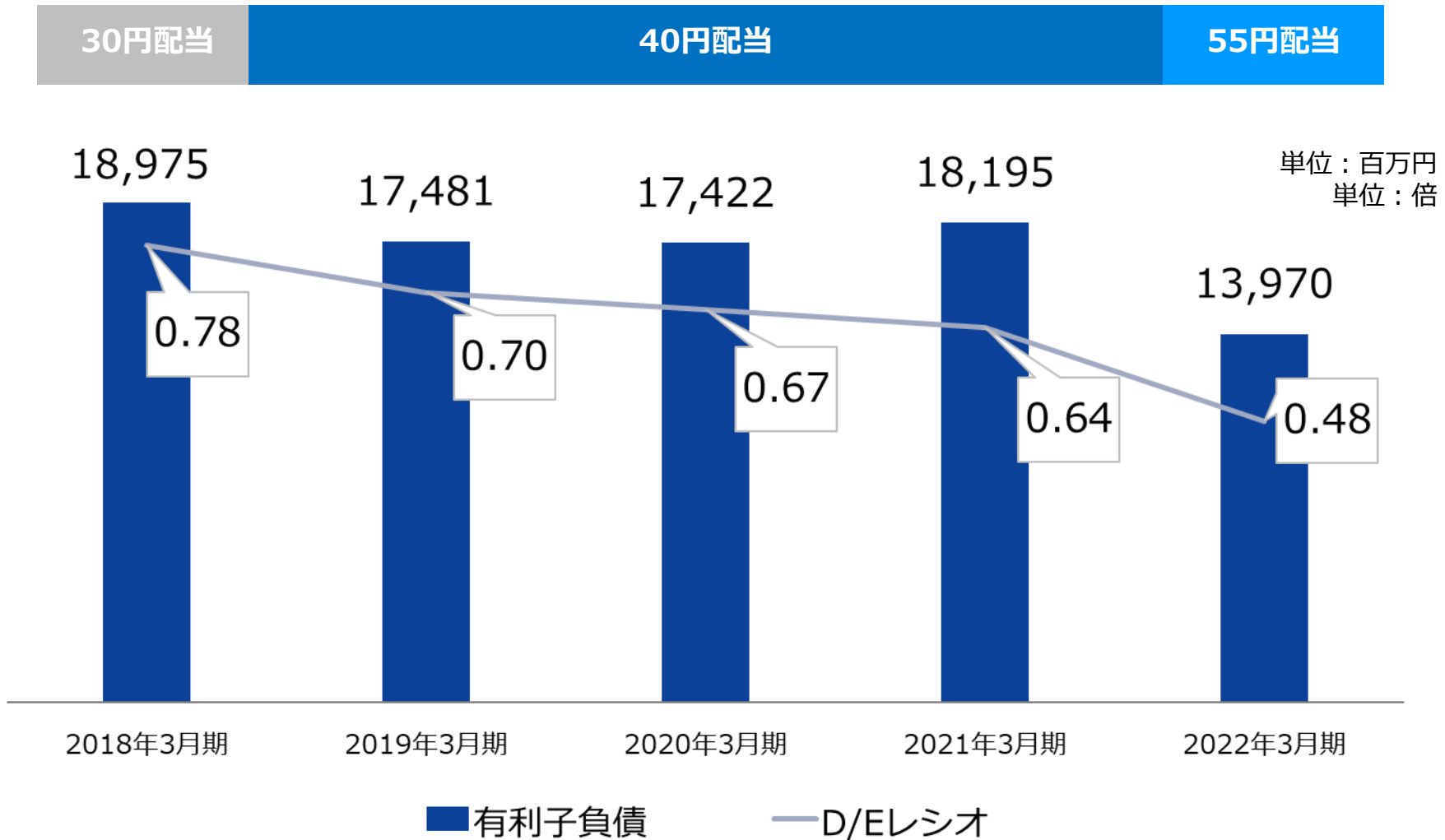
連結業績の推移



2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期

売上高	50,761	48,651	46,699	42,231	47,003
営業利益	3,232	2,649	2,557	2,388	3,192
営業利益%	6.4%	5.4%	5.5%	5.7%	6.8%
経常利益	3,375	3,119	2,817	2,852	4,055
経常利益%	6.6%	6.4%	6.0%	6.8%	8.6%
当期純利益	2,736	1,800	1,741	2,406	1,930

有利子負債及び配当の推移



配当は1株あたり。2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。2017年3月期以前の1株当たり配当金額は当該株式併合を考慮して換算した金額を記載

アナリスト／機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えてものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。